第 11 回流れの可視化シンポジウム開催にあたって

会 長 中 口 博

Opening Address of 11 th Symposium on Flow Visualization

President Hiroshi NAKAGUCHI

第 11 回流れの可視化シンポジウムの開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年もこのように盛んなシンポジウムの開催の運びとなりましたことは、ひとえに会員各位のご支援によるものと心からお礼を申し上げます。

すでにご案内の通り、今年は 3 日間開催することに致しました。昨年の例では過密ダイヤになりまして、皆様にも窮屈な思いをおかけしましたので、3 日間を計画いたしましてゆとりを持たせるように変えた次第でございます。

関連の機器展示も今回は昨年の 2.5 倍ほどの規模を用意することができました。昨年は展示をゆっくりご覧になる時間が不足してご迷惑をおかけしましたので、今年は午後の休憩時間をまとめて用意いたしましたのでご利用になっていただきたいと思いますっております。

このシンポジウムにおいて、谷一郎先生にお願いいたしました特別講演は学会の名前の通り流れと可視化に関するものであり、永年のご研究より興味深いお話を拝聴したいと思っております。

なお、今回は特に特定テーマとして「乱流」を計画いたしましたところ多数の申込みがえられましたので、最終日の午前に発表していただき、午後パネル討論会を予定いたしました。多数参加されまして、最近急速に研究の進んでいるこのテーマに関して活発なご討論をお願いし、実り多いものにと願っております。

酷暑の折ではありますが、会員の皆様方の活発なご討論をえまして、本シンポジウムが実り多いものでありますように、また懇親会などを通じまして会員相互の親睦を深めますようお願い致します。挨拶といたします。

表紙説明

2次元煙風洞で撮影した前後縁フラップつきの翼のまわりの煙流脈写真で、気流は左から右へ流れている。翼は前縁スラットと3枚の後縁フラップから成る多重隙間式の高揚力装置を展開しており、隙間を下面から上面へ抜けた流れがきれいに翼の上面に沿って流れ、迎角 (7°) およびフラップ角 (主フラップで 80°) が著るしく大きいにもかかわらず、上面の主流を翼に引きつけ、大きい揚力係数 ($C_L=4.4$) を与えていることがわかる。この写真では翼の基準弦長 200mm, 風速は 16m/s で, Re は 2×10^5 である。

煙風洞は、各フラップの形状および相互位置を、流れの模様を見ながら改良していけるので、高揚力装置の設計などには特に有力な手段を与える。

使用風洞および撮影諸元：東京大学工学部航空学科煙風洞（風路高さ×長さ×幅=1.5×2.0×0.1m）

照明：12V 50W 自動車用シールドランプ上下各7個

フィルム：ASA200, バンドール10分増感現像

露出：F3.5, 1/15s

（千葉大学工学部 中口 博）